



板橋 第四小学校  
第五中学校

東板橋図書館

表紙イラスト：板橋第五中学校3年A組 笹尾夢奈

おすすめ本づくりすと



The illustration is a highly detailed, dense black and white drawing. It depicts a complex scene with a central figure, a young girl with dark hair wearing a blue dress, who appears to be holding a red object. She is surrounded by a vast, chaotic array of small, intricate details, including buildings, streets, and various objects. A large bicycle wheel is visible in the lower-left quadrant of the illustration. The overall style is reminiscent of a woodcut or a highly detailed pen-and-ink drawing.

## 目次

目次	-----1
板橋第四小学校おすすめ本	-----2
板橋第五中学校おすすめ本	-----5
東板橋図書館スタッフおすすめ本	-----10
ぶっくりすと発行によせて	-----13

第四  
小

第五  
中

図書  
館

\*みなさんが選んだおすすめ本のなかの【好きな文】は、上記の色のついた吹き出しで囲まれています。

本のどこに書いてあるか、読んでさがしてみてください。

# 板橋第四小学校

# おすすめ本

『小説 あらしのよるに』 きむらゆういち 出版社：小学館



食べる側と食べられる側の2ひきの動物、オオカミのガブとヤブのメイは偶然嵐の夜に出会いますが、それぞれのわれの仲間にも、好きしていることがばれてしまいます。仲間か、友達を取るか、2ひきは迷たくをせまられます。絵本よりも、2ひきの会話や行動や心情がくわしく書かれています。『あらしのよるに』の絵本を読んだことがある人も、『あらしのよるに』を知らない人も、ぜひ読んでみてください。(5年)

「ガブ、もうわたしたち、ずっと一緒にいられるんですね」  
「ずっとずっと、一緒にっす」

『マジック・ツリーハウス 第32巻 アルプスの救助犬バリー』  
メアリー・ポーブ・オズボーン 訳：食野雅子

出版社：株式会社KADOKAWA

アルプスの救助犬バリー



この本は、ジャックとアニーがペンギンのペニーを助けるために白と黄色の花を見つけにアルプスにぼうけんに行きます。そこで警備にあつてしまひ救助犬に助けられて、次の日そこで子犬の救助犬バリーに出会います。でもバリーはやんちゃで村人に怖ることに。でもジャックとアニーはバリーをしい子にすると誓ひ、最後にはバリーが…。おもしろくて感動もあるお話なのでぜひ読んでみてください。(6年)

「バリーはきっと、すばらしい犬になるよー」  
みんなに信頼される、リっぱな救助犬に」

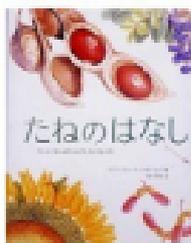
『そっといちどだけ』 なりゆきわかこ 絵：いりやまさとし  
出版社：ポプラ社



私がこの『そっといちどだけ』をおすすめしたい理由は、盲導犬のステラとご主人様あかねさんが助け合いながら生活していくお話だからです。あかねさんとステラはある日ぐらげん出合つてそれから毎日二人で協力しあつて暮らしています。しかしじたいは一室してステラはよくミスをするようになります。いつもあかねさんはステラに「どんまい」と優しく声をかけるけど、もげんかいが来てしまつて…。心があたたまる本なのでぜひ読んでほしいです。(6年)

わたしは からだしゅうをひきまて、  
きょうも たいすきな あなたを守る。

『たねのはなし』 ダイアナ・アストン 絵：シルビア・ロング  
訳：千葉茂樹 出版社：ほるぷ出版



この本は、植物の種を人間のように見立てています。たとえば「たねはほむつている」「ふくをきかざるたね」などです。たねもぼくたち人間のように生活していることが書かれていて、おもしろいなと思ひました。たねも「生きてる」ということを、この本を読んでみなさんにも知つてほしいと思ひ、おすすめします。(6年)

たねはたびびと

## 板橋第五中学校

# おすすめ本

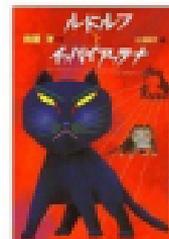
『日常の小説』 推出啓 原作：あらみけいいち  
出版社：株式会社KADOKAWA



とるとる、とるとる、とるとるとる  
とるとるこんぶは、ごはんにのせて  
とるとる、とるとる、とるとるとる  
れとるとるっしやは、よやくせい

日常のホノボノとした本で、面白いところは「言葉は、だるまである。名前も、高時だるま。」というところです。だるまなのに、高時だるまっていうのが面白いのと、「家中みんなでローリング！六畳一間でローリング！白衣も誰もローリング！」というところも面白いです。(1年)

『ルドルフとイッパイアッテナ』 斉藤洋  
出版社：講談社



「口ほどにもねえやろうだぜ。二度とこのへんをうろついてみる。こんどは両耳ちよんぞって、ドラえもんみてえなツラにしてやるから、そう思え！」

僕は、『ルドルフとイッパイアッテナ』という本を紹介します。この本は、2016年に映画化されました。良いところは、猫が猫を助け合う友情物語だし、全部読んだら、人間が生きてゆくうえで必要なことがたくさんあるので、ぜひ読んでみてください。(1年)

## 『ピトゥスの動物園』 サバステア・スリバス

訳:宇野和美 出版社:あすなろ書房



「ぼくたちも何かやらないか？ピトゥスはぼくたちのなかまだもん。」

スペインのバルセロナの下町に住んでいる仲良し六人組、その中のピトゥスという子が重い病気にかかってしまい、お金が必要ですが足りません。ある時、タネットという子が「動物園を作ろう」と言います。この話は、ピトゥスへの仲間への熱い思いや、協力し合う大切さが感じられます。はらはらドキドキします！（1年）

## 『小学生までに読んでおきたい文学③ こわい話』

編:松田哲夫 出版社:あすなろ書房



「電報なんてあてになりませんわ。きつとあの電報は、生きている玄武が打たせたんです」『復讐』より

この本は、その作品を読み、あらずしを理解してからもう一度読み返すと、深く読める話が集まっています。【好きな文】にある『復讐』は、推されていた玄武が死んだ後に、玄武の知れ合いが「もう死んでいるのに」と決めつけて言うということは…という種なこわい話が収録されています。ぜひ読んでみてください。（1年）

## 『世界の中心で、愛をさけぶ』 片山恭一

出版社:小学館



この場所に、ぼくたちは永遠に釘付けにされるのだ。

アキが今にも死んでしまう寸前で、剛太郎と二人でそのことを「永遠に釘付けにされる」という表現をしていて素敵だと思いました。この本には、この一文だけでなくもっと素敵な一文がたくさんあるので、ぜひ読んでみてください！（2年）

## 『掟上今日子の婚姻届』 西尾維新

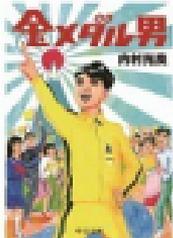
出版社:講談社



歴史学者になったつもりで未知に接すれば、そう怖がることはない

『掟上今日子の婚姻届』は、テレビでやっていないストーリーです。選んだ理由は、歴史学者になったつもりで未知に接すれば怖くないんだと思ったからです。あとこよこよだったからです。私は掟上今日子が好きなので、どいう風に事件になるのか、どう解決するのか、すごい気になります。読むとおもしろいので、ぜひ読んでみてください！（2年）

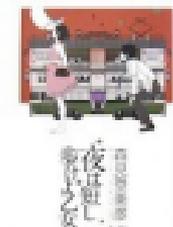
『金メダル男』 内村光良  
 出版社：中央公論新社



首に掛けられたキラキラ、キラキラ輝く金紙のメダル。

小学三年生の陸競走のときに1等賞をとり、そこからあらゆる一歩をとっていく男の人の話です。どんな一歩をとっていくのか、この本を読めばわかると思います。作者も内村光良さんでみんなも知っている方だと思うので、ぜひ読んでみてください。(3年)

『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦  
 出版社：株式会社KADOKAWA



かくして私は泣いたのです。  
 夜は短し、歩けよ乙女。

私がおすすめるのは、京都が舞台の、ちょっと変わった奇妙なお話です。なそのウイスキーや、空に消えたコイ、帰ってきたダルマや、突然始まる演劇と恋。このお話は本音におかしなことだらけです。だから私はこの本をおすすめします。何よりおもしろいし、あっと驚くような展開が待ちうけているからです。ぜひみなさんもこの本を読んでみてください。(3年)

## 東板橋図書館

# おすすめ本

『狐笛のかなた』 上横菜穂子 出版社:理論社



3人の登場人物を中心に進む昔の日本のような国を舞台としたファンタジー小説です。梅の林の先にある術が妖霊歌や、満開の桜が咲く若狭野など、読んでいと景色が浮かんでくるような気がします。なぜ小春丸は閉じ込められているのか、お互いに惹かれあう小夜と野火はどうなるのか。幸せなのだけれども、切なくもあるような結末が待っています。

桜の花びらが舞い散る野を、三匹の狐が香の隅に背を光らせながら、心地よげに駆けていった。

『小さい“つ”が消えた日』 ステファノ・フォン・ロー  
 絵:トルステン・クロケンブリック 出版社:三修社



個性豊かな文字たちがくらす五十音村。「音を出さない」という個性ゆえに、役に立たないものと言われてしまった小さい“つ”がいなくなってしまっ…日本語が大混乱? 五十音村からはいなくなってしまいましたが、この本のあちこちに小さい“つ”があります。五十音村のみんなが紹介されている所も。本文も面白いですが、絵もとっても楽しい本です。

文字にも、人間や動物と同様に魂があるんだ。

『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 出版社:岩波書店



「いい大人」とか「立派なひと」とってどんな人だろう? じゃあ、こうはなりたくないなって思うひとはどんなだろう? あなたの好きな人は、だれですか。夢中になれることは何ですか。誰に何を言われても、譲れないことはありますか。あなたの生きかたをこの本で見つけてください。

だから、コペル君、嬉しかえしていうけれど、君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしないでほしい。

『ネギをうえた人』 編:金葉雲 出版社:岩波書店



この本は、朝鮮民話(34話)あつまってできています。なんとなく日本の昔話と似ているものもあったり、「えー!?」と展開におどろくものもあってあります。日本と同じアジアの国の物語も、シンデレラや白雪姫のように、みんなに知ってもらいたいです!

「あなたが、そんなことをおっしゃれば、わたしの真心も、むだになります。」 『恩をかしたトラ』より

## ぶっぴりすと発行によせて

今年のブックリストは、毎年ご協力いただいている板橋第五中学校情報委員会のみなさんに加え、板橋第四小学校図書委員会のみなさんにも参加いただいて、より高質なブックリストを発行することができました。みなさんにとって大事な一冊や言葉が見つかりますように。

東板橋図書館 YA 担当 今子青佳

## □板橋第四小学校・板橋第五中学校・東板橋図書館 おすすめ本ぶっぴりすと□

2017年1月 初版第1刷発行

□著者□  
板橋区立板橋第四小学校図書委員会  
板橋区立板橋第五中学校情報委員会  
板橋区立東板橋図書館

□編集□  
板橋区立東板橋図書館  
今子青佳・坂本梨緒・森井陽子・早川あずさ・大谷和香子

□発行□  
板橋区立東板橋図書館  
<http://r.goop.jp/1b-n-higashi>  
(指定管理者 丸善・東急コミュニティー 共同事業体 丸善館空株式会社)  
〒179-0903 東京都板橋区加賀 1-10-15  
TEL: 03-3579-2646

印刷：プリントバック

©2017 板橋区立東板橋図書館